

患者中心の看護技術習得を支えるルーブリックの開発

Development of a Rubric to Support the Acquisition of Patient-Centered Nursing Skills

服部聖子* 喜多敏博*,** 合田美子*,**
Seiko HATTORI*, Toshihiro KITA*,**, Yoshiko GODA*,**

*熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻

**熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構

*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

**Research and Education Institute for Semiconductors and Informatics,
Kumamoto University

<あらまし> 臨地実習で生徒が患者に看護技術を適用しがたい原因の1つとして、校内での技術習得度が画一的な手順の再現に留まっていることが推測される。そこで再現を超える意図を含んだルーブリックを開発し、形成的評価を加え、実演を要求する事例課題の評価基準として実装した。その結果、当該ルーブリックは生徒のイメージしやすい概念の表現を助け、患者中心の看護に対する生徒の認識を一定程度促進し得たことが示唆された。

<キーワード> 看護技術, ルーブリック, 安全・安楽・自立

1. はじめに

看護技術習得度を評価する実演時において評価すべきは、期待される援助概念の転移を表すパフォーマンスであり、リン(Lynn, 2020)は、理解とは別の状況や別の時に転移可能なものである、と述べており、ライゲルス(Reigeluth, 2016)は、より細かいステップに分割することでは、専門家の考え方や、専門家が用いる知識が何かをつかむためには不十分であると述べている。両者に共通するのは、専門領域において細かく分割された形式でパフォーマンスを評価するのは、かえって非実用的となりかねないことの示唆と受け取れる。

翻って看護技術を取り扱う科目でチェックリストによる採点がスタンダードな現実の背景には、測定できなければ評価できないとする合理主義的な考え方があるのではないかと推測される。ミュラー(Muller, 2018)はそれを測定執着と呼び、パフォーマンス評価が失敗する要因の1つとしてあげている。

つまり動作項目ができたか、できないか、で採点容易な評価のみを採択せず、真正の評価の観点からパフォーマンスが評価可能な基準の開発が必要ではないかと考えられた。

そこで評価の基準が学習者にも分かりやすいルーブリック形式を採用し、身につけてもらいたいとする概念を含む援助内容の考察を助け、現状を客観視できる表記とし、真正の

課題と相互作用しながら援助を促進できるものの開発を目指した。

2. 目的

科目単元での援助スキルが動作や手順の再現にとどまらない技術習得を促進するため、これまで習得度評価として採用してきたチェックリストに替わるルーブリックを開発する。

その実装によって患者中心の安全・安楽・自立を目指す看護に対する生徒の認識を促進し、事例課題の患者に合わせた援助の計画や演示、科目履修後の生徒の生活や援助に援助概念の転移を表すパフォーマンスに影響を与えたかを検証する。

3. 方法

当該ルーブリックには動作や手順の指標を示すのではなく、患者中心の安全・安楽・自立の看護援助の概念と科目中の単元で学んだ言語情報を活用した援助内容を明示する。

プロトタイプは、奥村ら(2020)のルーブリック作成のチェックリストで検討し、ID専門家(同職種の大学院同期)や所属校の教員にルーブリックの意図を説明し、意見を収集する。また、クラスメイトの実演を対象に生徒と共にルーブリックを用いた評価を行い、意見や感想、不明や疑問点についての聞き取りやアンケートをもとに形成的評価を行う。

改良を加えて開発したルーブリックは、あらかじめ生徒に配布され、そこ記載されている単元ごとの技術を活用して立案した援助計画に基づいた演示が技術習得度の評価対象になることを生徒に説明しておく。

演示後に生徒は図1に示すルーブリックに提示された単元ごとのスキル習得度を自己評価する。実演の録画映像を複数の教員がルーブリックで評価し、評価者による評価のばらつきを確認する。また、前年度のチェックリストを用いた評価とルーブリック評価を比較し、開発したルーブリックが生徒の技術習得に与える影響や効果に関する情報を収集する。

4. 結果と考察

ルーブリックの評価は最高6点、最低1.5点になるが、生徒46人の自己評価と教員評価の誤差1点以内が69.5%だったことから、ルーブリックの内容理解が不十分な生徒が少なからずいたと推測される。また、もっとも乖離が大きかった項目は安楽で、次いで安全、自立と続いており、イメージしやすい項目はより理解が進んだのではないかと推測された。

そして、当該科目では最終課題として科目のまとめ作品の自由創作を行っているが、ルーブリックの安全・安楽・自立という評価基準を活用して単元で学習した内容をまとめている作品が7割を占めた。このことから患者中心の看護に対する生徒の認識が一定程度は得られたのではないかと推測する。

また、アンケートによる科目で知識や技術を日常生活のなかで感じ、実践してみたことはあるか、の問いに対し、おおいに感じるものがあつた50%、たまに感じるものがあつた

46.2% (n=26) という結果であつた。その実際として、仕事で援助方法を試用したところ被援助者から苦痛が軽減したとの発言があつた、アルバイトでのオムツ交換後の褥瘡予防にシワをのばすよう注意して行った、重い荷物の運搬に重心と支持基底面の知識を役立てているなど、実務での応用の報告が寄せられた。これらのことから、科目学習が実務や生活に少なからず影響を与えたことが確認された。

5. 今後の課題

ルーブリックの有効活用のためには、生徒と評価者に対するガイダンス時間を増加し、評価者による評価の相違について調査を継続して、より汎用性の高いものに改善していく。

参考文献

Wenger, E.(1998). Communities of practice: Learning, meaning, and identity. Cambridge, MA: Cambridge University Press.

H.リン・エリクソン,ロイス・A・ラニング,レイチェル・フレンチ (2020) 思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践,北大路書房,p35

ジェリー・Z・ミュラー, 測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?,みすず書房, 2019

奥村好美, 西岡加名恵編 (2020) 「逆向き設計」実践ガイドブック理解をもたらしカリキュラム設計を読む・活かす・共有する, 巻末資料⑧, 日本標準

C.M.ライゲルース A.A.カー=ジェルマン (2016) インストラクショナルデザインの理論とモデル 共通知識基盤の構築に向けて,北大路書房, p69

山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志 (2018) 看護学実習中の学生が直面する問題, 看護教育学研究, 27(1):51-65

評価基準	知識を活用した援助実践力	大変すばらしい 2点	もうひと息 1.5点	技術をみがこう 1点	まず練習しよう 0.5点
安全 (危険の回避) ・状況把握力 ・問題発見力 ・訓練された 問題解決技術	□1 転倒・転落予防 □2 褥瘡予防 □3 姿勢調整による誤嚥予防 □4 イソペト・アソテ予防 □5 その他環境等の危険回避	安全に必要な知識や技術を実践に応用し、全ての項目でリスク回避に有効な看護をしている	安全に必要な知識や技術を実践で部分的に活用し、項目の半分(3)以上で危険回避に有効な援助をしている	安全の配慮はあるが知識や技術が不足しており、実践で危険回避の項目が2つ以下の不十分な介助をしている	安全に必要な知識や技術を知っているが、実践で患者の危険回避が困難な手助け(項目1以下)をしている
安楽 (心と身体両面) ・説明責任 ・倫理的配慮 ・消極的記録 ・訓練された 確実で円滑な 技術	□6 動作前の説明と同意 □7 対象が尊重を感じ、安心して きる言葉かけ・言葉づかい □8 丁寧に丁寧な身体への扱い □9 ボディメカニクスの活用 □10 動作・声掛けのスムーズさ	対象が安楽を得るのに必要な知識や技術を実践に応用し、全ての項目について安楽を満たす円滑な看護をしている	対象が安楽を得るのに必要な知識や技術を実践で部分的に活用し、項目の3つ以上で安楽を提供する援助をしている	安楽への配慮はあるが、知識や技術が不足しており、実践で安楽を満たす項目2つ以下の安楽には不十分な介助をしている	安楽に必要な知識や技術を知っているが、実践での項目が1つ以下の安楽には不足な手助けをしている
自立 (状態に適した) ・症状理解 ・安静度把握 ・機能維持向上 ・訓練と修正を 重ねた援助の 工夫	□11 自立を仕向ける工夫 (自然な起上がり・立上がり) □12 自立の機会を奪わない □13 対象の意欲や機能維持・ 向上を促す声掛け	対象の状況・状態・環境に合わせ、実践で自立を促進する項目全てに考慮と配慮がある看護をしている	対象の状況・状態に合わせ、実践で自立を促進する項目2つについて、考慮と配慮がある援助をしている	対象の状態に合わせ、実践で自立を促進する項目1つに配慮するにとどまる介助をしている	対象の言動に合わせて自立を促進する要素が見られない手助けをしている

図1 ルーブリック (紙幅に応じて改編)